



BY THE SEA  
for the sea side life

文◎ジョージ・カックル  
text by George Cockle



Artist : Seals And Croft  
Title : Summer Breeze  
Label : Warner Brothers  
Item Number : 2-2629

## いろんな意味で心に残ったあの夏の野外フェス

1972年の夏は、アメリカのどこへ行っても、このロックデュオ、シールズ・アンド・クロフトの『サマー・ブリーズ』が、夏の風に乗ってきたようによくかかっていた。2人の甘いハーモニーとアコースティックギター、そしてフィドルのサウンドは、その時代のウェストコーストのアコギブームにぴったりだった。イーグルスが開拓したサウンドともいえるだろう。あのハワイアンデュオ、シシリオ・アンド・カポノも、この2人のアレンジやハーモニーに影響されているとしか思えないほど似ているところがある。『サマー・ブリーズ』は夏に発売され、夏にヒットした夏の歌だけど、今では一年中かかるクラシックの名曲になっている。秋だろうと冬だろうと、もう一度夏の熱い風と夏の思い出を蘇らせる曲。人々にあの夏をもう一度と思わせる。

僕がこの二人のライブを初めて観たのは、1978年の夏だ。当時、カリフォルニアに住んでいた僕は、高校時代の彼女に誘われて、カリフォルニアのゴールド・ラッシュ・カントリーの山の中にあつたカラベラス郡の小さなロックフェスに行った。カラベラス・カウンティ・フェアのなかのフェス、マウンテンエア・フェスティバルだ。この郡はアメリカでは有名だ。ゴールド・ラッシュ・カントリーは1840年代のカリフォルニア・ゴールド・ラッシュ(=金の採掘ブーム)が始まった地域だが、カラベラス郡が有名な理由はもうひとつある。それは祭りで毎年行われる、カエルが飛ぶ距離を競うコンテストで起こった事件を、アメリカの有名な作家、マーク・トウェインがショートストーリーにしたからだ。その話は『カラベラス郡の祝福された飛び蛙』という。カエルを跳ばすときに、ある選手が相手のカエルに鉛を飲ませ、重くして飛べなくしてしまったという八百長の話だった。そんな大会を含め、この祭りは毎年開催され、ライブもある。僕が見たライブの出演アーティストは3バンド。オープニングには『エミー』でヒットしていたピュア・プラーリー・リーグ。その次がカントリーロックのポコ。そこにはのちにイーグルスのメンバーになったティム・シュミットもいた。そして最後はシールズ・アンド・クロフト。彼らの大ヒット曲「サマー・ブリーズ」は1972年

の作品だったけど、まだ大人気のバンドだった。そしてシールズ・アンド・クロフトが、メインアクトになってしまう理由はもう一つあった。この2人は以前、チャンプスというバンドのメンバーだった。チャンプスはインストのバンドで、当時、彼らはドラムとサックスを担当していた。もしかしたら、このバンドの名前、チャンプスは知らなくても、彼らの曲はきっと知っているだろう。その曲は「テキーラ」。そう、パーティーを盛り上げるためにバンドがよくやるあの曲、「テキーラ」だ。この曲があまりにも有名パーティーソングなので、彼らがアンコールでやってしまうと、観客が盛り上がりすぎて、次のバンドは出られなくなってしまう。だから必然的にトリを飾ることになるんだ。

アメリカの野外のライブでは、裸の観客がいることは珍しくない。特に山の中のフェスでは、湖や池や川で、裸で泳ぐのは普通だ。アメリカのロックフェスの映画『ウッドストック』を見たことある人はわかるだろう。裸の若者は多い。

俺はあの日のことを、つい昨日のように思い出す。最初のバンド、ピュア・プラーリー・リーグのライブが始まったら、ステージ裏の池から、裸で泳いでいた人達がライブを見るためにいっせいに走ってきた。彼らは服を着ながら、持ちながら、ステージの横にあった2メートルぐらいのフェンスを登って越えてきた。ほとんどは無事に登れたが、服をフェンスのこっち側に投げて素っ裸で登ろうとした男は、フェンスの上で股の下の袋をひっかけてしまった。あきらかに、ひっかかっていた。ステージの横だったので、観客は全員大きなため息、もしくは叫び声。バンドも演奏を止めてステージからこの男のことを見ていた。何人かが助けに行ったが、男は自分の力で無事に越えてきた。彼が飛び降りてから、バンドがもう一度笑いながら演奏を始めた。それから、ポコ、そしてシールズ・アンド・クロフトと続いた。悲鳴を上げそうな事件だったが、事なきを得、心に残る夏の山の野外イベントになった。あの男のことは、今でも笑い話として語り草になっているだろうな(笑い)。★

PROFILE ジョージ・カックル◎ 1956年鎌倉生まれ。日本人で日本舞踊の師匠の母とアメリカ人でヨットマンの父を持ち幼少時代を日本・テキサス・韓国で過ごす。小学3年生でビートルズに開眼。LAで有名なサーフポイントでの初サーフィン体験。この原体験が彼のその後の人生を決定付ける。日本での学生生活の後、憧れのインドをはじめ世界を放浪し、ハワイ経由でサンフランシスコに移り住み18年間波乗り明け暮れた。1995年帰国後、生まれ故郷鎌倉へ音楽マネージメント&制作会社を立ち上げ、日本のミュージックシーンにbabamaniaなどを輩出。音楽プロデューサー、コラムニスト、作詞家(マッドカプセルマーケティング、阿川泰子など)として、2006年の8月には子供の英語・音楽教育用の本『ウクレレ・マミー・アンド・ミー』を出版。古今東西の音楽と文化と人間臭さをこよなく愛し日本と世界を結ぶ架け橋になりたいと願い、今日もポップ・マリーーを聞きながらサーファーとしても多忙な日々を送っている。現在、インターFM(76.1)毎週日曜日、9:00~13:00 レイジーサンデーを担当。

SHONAN BEACH FM 78.9 STARLIGHT CRUISING Thursday 8-10pm